

・ 参考資料 弥生町誌

・ 資料提供

・ 弥生町教育委員会社会教育課

・ 弥生町役場住民課

・ 助言者

・ 宇藤木在住 河野照子氏

(ありがとうございました。)



## 表紙解説

この神楽は、蒲江浦の王子神社で奉納されている神楽十二番のうち、九番目に舞われるものである。毎年一月十日と九月十日のいわゆる十日戎と、春の例大祭の四月三・四日に奉納されている。神楽奉仕員は舞人二人と大太鼓一人、小太鼓・横笛・チャンガラは一人内至二人ずつ、時によって人数が増えることもある。

この恵美須・大黒舞の起源については、王子神社の足田社家にある「当浦日記」によると、宝暦四戌年(一七五四)四月に「御鳥居一字奉納」と記されているが、当時の恵美須神社は西之崎の保育所跡辺りにあった。しかし、海が近く台風の被害を度々受けたので、向浜の竹田屋旅館跡付近に移した。それは安永二三年(一七七三)十月のことであり、盛大な海上渡御であったという。この時はじめてこの神楽が奉納されたものか、或いは以前から舞われていたものかつまびらかでない。

恵美須(事代主命)と大黒(大国主命)は、七福神のなかでも最も庶民に親しまれており、恵美須は漁の神大黒は商売繁昌、五穀豊饒の神として、二神一対で広く尊崇されている。

解説 西元由雄